

旅に出たい。 そう思ったら…。

旅に出たい。そう思い立ってみたものの、どう進めていけばいいのかわからないという方が多くいらっしゃいます。まずは私たちのお客様の事例をもとに、どのような流れでしゃらく旅クラブが旅行を実現するのか、簡単に紹介させていただきます。

娘さんがたまたま見かけた「しゃらく旅クラブ」のリーフレット。それがお客様とわたしたちとの初めての出会いでした。

1. お電話での簡単なヒアリング

「93歳になる旅行好きの父をどこかに連れて行ってほしい」とのお電話をいただきました。昔は、今は亡き奥様と一緒に毎週のように旅行に出かけ、たいていの観光地には足を運んだというほどの旅行好きとのこと。ある意味、わたしたちにとってはハードルが高いお客様です。

通常、最初のお電話では、どんな旅を望まれているのか、今までどんな旅行に行ったのかなど、旅への想いを簡単にお伺いします。

2. アセスメント・ヒアリング

日程調整をして、お客様が入居されている施設へ訪問。娘さんにケアマネジャーさんやヘルパーさんも加わり、アセスメント及びヒアリングを行いました。

私たちがまず行うこと、それはアセスメントと旅に関するヒアリング。アセスメントとは、お客様の旅での安全を確保するために、お客様のお身体の状態をしっかりと把握させていただくことです。病気や通院状況、日頃の介護状況に加え、日常生活についても詳しく伺います。ご本人様はもちろん

の事、ご家族やケアマネジャーさん、看護師さんや担当ヘルパーさんにもできるだけご協力いただき、旅行中のリスクをあぶりだしていきます。

それから旅への想いを聞くためのヒアリングも行いました。



具体的な行きたい場所や、食事の好みなどに加え、旅への想いがあれば詳しくお伺いします。これらが、後の宿泊先の手配や移動、休憩等、スケジュールに反映されていきます。

どこに行きたいのか、そしてその場所にはどんな思いがあるのか。

「行きたい」ということそのものも大事なのですが、なぜ行きたいと思っているのかという根っこの部分を聞かせていただけるかどうかで、旅の質も変わってきます。これも私たちが大事に考えているものの一つです。

また、体に思うように動かない箇所がある場合、外出しようとする、ご本人やご家族に様々な不安が生まれます。最も多いのが、実はトイレに関する事。トイレは近いのだが、道中、何回トイレに寄れるのか、車いすでも入れるのか、ホテルのトイレに手すりはあるのか、手すりは使いやすい位置にあるかなど、心配される方は非常に多くいらっしゃいます。それ以外にも、安全に入浴できるか、体力が持つのだろうかといった不安を一つ一つお聴きしていきます。

その一つ一つの不安を取り除いていくこともまた、旅を心から楽しんでいただくために、とても大切なことだと私たちは考えています。

3. 行程表の作成・ヘルパーとの打ち合わせ

アセスメントが終わると、仮の行程表を作成します。今回は旅好き・歴史好き・温泉好きなお客様にぴったりの滋賀県長浜への一泊二日旅行。歩行機での歩行は可能ですが、日頃の外出時は車いすを利用しています。4年ぶりの旅行ということで、できるだけ移動の距離や時間は短かくし、ゆったりと楽しんでいただくための、プランを組みました。

アセスメントやヒアリングの内容を元に、旅の骨組みともなる仮の行程表を作成します。そこから更に、どんなバリアやリスクがあるのかを考え、それぞれの対応策などを肉付けしていき、行程表ができあがります。例えば車いすでの移動ルートにおけるバリアや車いすトイレの場所など、必要なものは全て現地へ行くなどして調べ、把握します。更にはエスコートヘルパーとの打ち合わせも行い、



必要なのは全て現地へ行くなどして調べ、把握します。更にはエスコートヘルパーとの打ち合わせも行い、



実際に顔を合わせることで安心して当日を迎えていただくようにしています。

4. 旅の実施

4年ぶりの親子旅行

神戸から滋賀県長浜までの道のりは約130キロ。車でトイレ休憩を頻繁にとって約2時半の道のりです。4年ぶりの旅行とあって、出発前は笑顔を隠しきれない様子でした。車を走らせ、しばらくすると、お客様の母校、関西大学が見えました。下駄に袴姿で学校に通ったことや、他大学との小競り合いのお話。もう70年も前のお話を昨日のように話してくださいました。

アセスメントやヒアリングの際、差し支えのない程度に、お客様の若いころのお話などもお聴きします。普通だった学校や住んでいた地域など、思い出が詰まった場所をできるだけ行程の中に組み込むためです。

長浜に到着し、お食事。店の前には段差がありましたが、事前に連絡をしていたので、お店の人が手伝ってくださいました。入居している施設ではあまり箸が進まないお客様も、この時ばかりは一緒に同行している娘さんもビックリするぐらいの食欲でした。



私たちはもちろ

んお客様のバリアを取り除くことを大事にしていますが、バリアがないことを前提条件に訪問場所を選ぶことはしません。

まずはお客様が行きたいところをお聴きし、そこに行く上でバリアがあるのであれば、それをフ

リーにしようと考えます。食事場所も、まずはおいしいことやその地域ならではの料理を出すこと等を条件に、お客様に心から喜んでいただくことを最優先に考えます。



お食事が済んだあとは、観光へ。あいにくの小雨でしたが、石田三成生誕の地や長浜歴史博物館、姉川古戦場などに足を運びました。

早めに宿泊先の旅館へ向かい、小休憩。バリアフリーの設備が整った部屋に安心されたご様子。

部屋からは琵琶湖が一望でき、眺めているだけで心が落ち着きます。

お食事もおお客様の負荷を減らすために、部屋食に。いつもと違う格別の料理を楽しめました。

お客様の様子を見ながら、疲れたかなと思ったら、すぐ休憩を入れたり、景色がとてもきれいでもうちょっと見ていたいかなと思ったら、長めに時間をとったりします。臨機応変に対応できることが、オーダーメイド旅行の最大の魅力です。

夜のトイレも安心。

一般的に旅館のベットには手すりはついていませんが、事前に手すりを用意、設置しました。これで、夜中のトイレの時の立ち上がりの転倒も心配ありません。

宿泊先に必要な設備がない場合も、お客様に安心していただけるようにできるだけ工夫をしま

す。酸素ボンベや入浴用の車いすなども手配できます。

翌日は彦根城周辺を周り、昼食をとった後に施設に戻りました。

高齢で久しぶりの旅行をされる場合は特に、疲れが見られた場合のために複数のプランを想定しておきます。お客様と相談しながら、予定を変更して進めることもよくあります。



5. 旅を終えて

写真を現像し、アルバムをお渡ししました。

旅に出る前もそうですが、旅が終わった後も、写真を見ながら思い出したり、おみやげを渡しながら話をしたりして楽しめます。こういうところも旅がリハビリに繋がると考える要因の一つです。

4年間、旅行に行けなかったお客様ですが、今は月に1回ペースで旅行に行ってくださいています。部屋に行くと、旅の予定日に○印を入れ、まだかまだかとその日を待ってくださいているそうです。いつも本当にありがとうございます。



旅に出たいと思いながらも、あきらめてしまう方が多くいらっしゃいます。その最大の原因は、設備のバリアではなく、心のバリア。人に迷惑をかけると考えたり、体力などへの不安を抱えたりしている人が非常に多いのです。周りの方もあきらめず、行きたいというサインが見えたら、ぜひサポートしてあげてください。

大変うれしかったです。
 此一泊 伊一宿 此へとおいておまう
 果か 果てり 伊一宿 此へとおいておまう
 此へとおいておまう。 此一泊 伊一宿 此へとおいておまう
 アッ今アッなと思はるへー 下等へおま
 此へとおいておまう
 又一泊 此へとおいておまう。

担当者コメント

旅が終わるとき「次もまた頼むで～」。その言葉が何時も待ち遠しく感じております。
 旅の友として、また楽しい旅をエスコートします!!

介護度 要介護 1

年齢 93 歳

行先 滋賀県長浜市

同行 エスコートヘルパー 1 名



時間

行程

1 日目

エスコートヘルパーがお出迎え
 郷土料理専門店 住茂登 ご昼食
 長浜散策
 姉川古戦場へ到着
 小谷城跡へ到着
 旅館 紅鮎へ

2 日目

紅鮎温泉を出発
 彦根城に到着
 「千成亭」に到着／昼食
 四番町スクエアを散策
 お買い物
 施設に到着